

動物ふぁいる No.74
生き物ずかん

かごしま水族館
ホンソメワケベラ

【かごしま水族館 ☎226-2233 FAX223-7692】



ホンソメワケベラは全長12センチほどの魚で、太平洋とインド洋の熱帯・亜熱帯の海域に分布し、日本では房総半島から南の海域の岩礁やサンゴ礁周辺に生息しています。

ホンソメワケベラは他の魚に近づいては、魚に付着した寄生虫や粘液などを食べ“掃除”することで知られています。飛び跳ねるように泳ぐ独特のダンスと、ほのかに青みがかった白色と黒帯という目立つ体が「私は掃除屋です」というアピールになっており、その独特な泳ぎなどを見て、他の魚が「クリーナーフィッシュだ」と認識しているともいわれています。大型魚や肉食の魚に食べられることもなく、他の魚たちから掃除してもらおうと彼らの縄張りにやってきて掃除の順番待ちができるくらい、ホンソメワケベラは魚の世界での人気者です。

当館では2階のサンゴ礁水槽で展示していますので、魚たちの生態をぜひ観察してみてください。

かごしまフォロワー
かごフォロ

ダンスアーティスト
米満 叶夢 さん

【広報課 ☎216-1133 FAX216-1134】



8月にオランダで開催された、ストリートダンス世界大会で日本人最高位のTOP3に選出され、鹿児島を拠点に世界各国の大会やイベントで活躍する米満さんにお話を伺いました。



幼い頃から両親が聞いていた洋楽に合わせてよく踊る子で、見かねた両親の勧めでダンスレッスンに通い始め、ダンス漬けの日々が始まりました。レッスンは毎日のように行っていますが、好きなダンスで、世界で活躍することを目指していたので、嫌だと思ったことはありません。曲のスタイルに合わせて完成形を何度も追求して、自分に満足する形ができたときにストリートダンスのやりがいを感じます。

昨年の大会では、初めて予選落ちを経験し、自分のダンスに光が見えず悩んだ時期もありましたが、周りの方の支えがあり、素直にダンスを楽しもうと思えたからこそ、ベストを尽くして結果につながったと感じています。

今月にはフランスで世界大会が開催されます。8月の大会で敗れた選手も出場するので、今度こそは勝利して優勝することが目標です。今後も、所属している「True's」の合言葉“鹿児島から世界へ”をモットーに、鹿児島に住み続けながら世界で活躍するダンサーになりたいです！



8月の世界大会TOP3

(インタビューの詳細は広報課Instagram「カゴシマファン」などでチェックを)



学芸員オススメ! No.92
市立美術館の逸品

橋口五葉
「ペゴニアほか」、「バラ」(五葉百花譜より)

【市立美術館 ☎224-3400 FAX224-3409】

花を愛した五葉の植物画



秋咲きの花を楽しめる季節となりました。橋口五葉は、自ら草花を育てめぐる、大の植物好きでした。テレビドラマなどの影響で注目されている植物画ですが、実は五葉も図鑑を思わせる美しい作品を残しています。

花を季節や種類ごとに記録したものを花譜といい、総数約百点のさまざまな花からなる五葉の作品は「百花譜」といわれています。その多くは植物の種類を特定することができるほど細密で、本作ではペゴニアやバラなどが描かれています。繊細でみずみずしい表現から、彼の花への愛情が感じられます。このような写実的描写は、植物をモチーフにしたデザインの仕事にも生かされていきました。

目にも鮮やかで香りまでも感じられそうな植物画を、ぜひ当館でご覧ください。

※12月10日(日)まで開催する「秋の所蔵品展」で10点を展示しています

ひろばサポーターがゆく 桜島・錦江湾ジオパーク

【世界遺産・ジオ・ツーリズム推進課 ☎216-1313 FAX216-1320】

桜島・錦江湾の魅力、もっと体感してみませんか？

桜島・錦江湾ジオパークが日本ジオパーク認定10周年を迎えました。そこで今回は、“火山のミニ博物館”として展示・解説などを行っている「桜島ビクターセンター」で話を伺いました。



ひろばサポーター
荒川

ジオパークとは、大地の公園という意味。私たちにとって身近な桜島ですが、その地質や地形は、地球の歴史を物語るとても貴重な大地の遺産。人とのつながりを学び、後世に伝えることを目的に、観光だけでなく、教育や防災にも役立てられています。



桜島・錦江湾ジオパークの1番の魅力は、活火山と人が共生していること。活火山があることで水はけの良い土壌になり、桜島大根や桜島小みかんなどのおいしい野菜や果物ができたり、大昔の巨大噴火でできた錦江湾には約千種類もの生物がいたり、多くの恵みをもたらしてくれています。大噴火を起こせば人々を危険にさらす桜島ですが、活動の観測体制が整えられ、住民が一体となって防災訓練を行うことでその脅威とも向き合い、火山との共生が実現しています。桜島は大昔から大噴火を繰り返してきましたが、溶岩の流れた場所は長い年月を経て植物が再生するため、その成長に目を向けて桜島を一周すると、あちこちで違う年代の植生が観察できるタイムトラベルも楽しめるそうです。

今月は「灰フェス」(11面参照)、12月には桜島・錦江湾を一周して自然の恵みを体感する「バスツアー」(12面参照)が行われます。私は長年鹿児島に住んでいますが、ジオパークを学ぶことで、もっと桜島に愛着が湧きました。皆さんも、桜島・錦江湾の魅力を感じてみませんか？

